



本県では、肥育前期に粗飼料を多給することで、牛の第一胃の発達を促し栄養の利用効率を高め、良好な発育、枝肉成績を得る長崎型新肥育技術の普及拡大を進めています。肥育前期に給与する粗飼料の品質評価は現在、粗タンパク質（CP）含量を基に評価していますが、粗飼料摂取量には繊維成分である中性デターシエント繊維（NDF）や酸性デターシエント繊維（ADF）が関係しているといわれており、これらを一体的に評価した事例はほとんどありません。

そこで、肥育前期における粗飼料摂取量の増加による枝肉重量増大を目的に、一般的に流通している粗飼料であるエン麦、チモシー、イタリアンストローの3種の乾草を用

いてCP、NDF、ADFなどの栄養成分特性の違いが飼料摂取量や枝肉成績に及ぼす影響を検討しました（表）。その結果、粗タンパク質と繊維の比率を示すCP/NDF比、CP/ADF比が高い

肉牛の長崎型新肥育技術

前期の粗飼料多給で枝肉重量増を裏付け

エン麦やチモシーを肥育前期に給与すると、肥育前期の粗飼料摂取量が多く、第一胃が発達するため、肥育後期の配合飼料摂取量も多くなり、枝肉重量が約15%多くなりました。

（長崎県農林技術開発センター 畜産研究部門 早田剛）

肥育前期の粗飼料の栄養成分の違いが摂取量および枝肉成績に及ぼす影響

試験区	肥育前期粗飼料栄養成分					飼料摂取量※1		枝肉重量 ※1 (kg)
	CP (DM%)	NDF (DM%)	ADF (DM%)	CP/NDF (%)	CP/ADF (%)	前期粗飼料 (DMkg)	後期配合飼料 (DMkg)	
エン麦区	7.5	49.1	24.1	15.3	31.1	639.5	3301.0	519.4
チモシー区	11.7	65.6	38.9	17.8	30.1	565.9	3266.5	519.9
イタリアンストロー区	6.3	67.2	39.4	9.4	16.0	207.2	2785.5	446.8

※1 各試験区3頭の平均値